

短 報

看護史から自校史を学ぶ取り組み ～2019年度「自校史と看護史」実践報告～

佐居 由美¹⁾ 小野若菜子¹⁾ 片岡弥恵子¹⁾ 長松 康子¹⁾
牧野 晃子¹⁾ 武藤 賢一²⁾ 藪 純夫²⁾

Practical Report on 2019 [School History and Nursing History] —Learning about One's Own College History through Nursing History—

Yumi SAKYO¹⁾ Wakanako ONO¹⁾ Yaeko KATAOKA¹⁾ Yasuko NAGAMATSU¹⁾
Akiko MAKINO¹⁾ Kenichi MUTO²⁾ Sumio YABU²⁾

[Abstract]

St. Luke's International University began offering a class in "one's own college history and the history of nursing" (elective subject, two credits) in 2015. In 2019, there were 35 freshmen and sophomore undergraduate students. The purpose of this course was to consider the meaning and behavioral guidelines that students learn about the founding spirit of our university and history. The course consists of lectures, extracurricular studies, and assignment presentations. In addition, the lectures include the history of the college of nursing, each nursing profession (public health nursing, general nursing, midwifery), nursing specializations, and international nursing. By teaching about the history of nursing, these lectures provide information regarding graduates, activities, and the roles that the college of nursing has played in nursing. One of the assignments was a poster presentation, and the theme, what the students learned about the college history, was selected by students. A questionnaire was administered at the end of class, and 25 students responded (recovery rate: 73.5%). The mean values for evaluated lectures were 9.16–9.72 points out of 10, indicating that the course was evaluated positively. Free descriptions were also included, such as "It is very meaningful to learn about own school history" and "It was meaningful to hear various nursing perceptions from a variety of people." Given these free descriptions, participation in the course could provide an opportunity for students to consider future action guidelines, and the learning objective was achieved.

[Key words] St. Luke's International University college of nursing, Own school history, Nursing history, subject evaluation

[要 旨]

聖路加国際大学では、2015年度より「自校史と看護史（選択科目、2単位）」を開講している。2019年度の履修者は学部1・2年生の35名であった。本科目は、本学の建学の精神や歴史の学びから、自分が聖路加国際大学において学ぶ意味や行動指針を考えることを目的としている。科目は、講義、課外学習、課題の発表で構成し、講義は、本学の歴史に加え、各看護職（保健師／看護師／助産師／養護教諭）、看護の専門化、国際看護に関する歴史から構成し、各専門領域の教員が担当した。看護の歴史を学ぶことで、

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2) 聖路加国際大学大学史編纂・資料室・St. Luke's International University, Archives

自校史が学べるように、これらの講義には、本学の卒業生の活動や本学が看護において果たしてきた役割についての内容が含まれている。自校史で学んだ内容について関心あるテーマを選び調べてポスターとして発表する課題を課した。本科目終了時にアンケートを実施したところ、25名（回収率73.5%）から回答があった。各講義評価の平均値は10段階中9.16～9.72ポイントであり、「自分の大学や聖路加国際病院について改めて知ることができてためになった」「様々な方から様々な看護の捉え方を伺えて有意義だった」などの自由記述があった。これらから、本科目の受講が、学生がこれからの行動指針を考える機会となる可能性が推察され、本科目の学習目的が達成されたことが示唆された。

〔キーワード〕 聖路加国際大学、自校史、看護史、科目評価

I. はじめに

「自校史と看護史」は、2015年度刷新カリキュラムにおいて開講された科目である¹⁾。

20018年4月より、本学は大学におけるアーカイブ事業の重要性から、「大学史編纂・資料室」を設置し、渡部尚子客員教授（当時）が、室長として就任した。資料室は、戦前・戦後から現代までの本学関係者へのオーラルヒストリーの聴取や史料を収集し、さらに自校教育に資するブックレット作成の準備を開始²⁾し、「聖路加看護大学のあゆみ」³⁾を始めとするブックレット^{4)~6)}の発刊、オーラルヒストリーの成果の公表^{7)・8)}を重ね、本学の歴史の集積に取り組んできた。本科目は、大学史編纂・資料室がこのように収集しまとめた本学の自校史を、看護の歴史と共に、次世代を担う学生に教授し語り伝えることも目的のひとつとしている。

編纂資料室によって集積された本学の歴史を、看護学部のカリキュラムに反映させた最初の科目は、渡部尚子教授による「統合科目Ⅳ（自校教育）」である。この科目は、2011年度のカリキュラム改正時に教養科目の新規科目（選択1単位）として開講された。2011年度改訂カリキュラムでは、本学の理念である「豊かな知性と感性の追求による人間形成」と、本学のビジョンである「広い基礎学問に基づいた、柔軟で創造的な実践力をもち、相手を尊重し品格のある態度を身につけた21世紀型市民の育成」に基づき、教養科目を充実させたことが特徴のひとつであり、本学の歴史から人間愛の精神、自身のアイデンティティを育む機会とすることを目的に、「統合科目Ⅳ（自校教育）」が新設された⁹⁾。

こうして開始された本学の自校史教育は、2015年度のカリキュラム改正において、「自校史と看護史」として引き継がれ、単位も1単位から2単位となった。科目名に“自校史”とはっきり示された事で、本学における自校史の位置づけがより明確となった。「統合科目Ⅳ（自校教育）」同様に、渡部尚子名誉教授が「自校史と看護史」が担当されておられたものを、筆者が引き継いで現在に至っている。

II. 自校史教育とは

そもそも自校史を学ぶことの意味は何であろうか。偏差値で学校を選択し大学についての知識を持たずに入学してくる学生や、入学試験の結果、不本意ながら入学した「不本意入学者」の増加を背景に、大学の教育理念、歴史的あゆみを学ぶ重要性が高まり、自校教育を導入する大学・学部が増加した¹⁰⁾。日本の大学における自校史教育は、私立大学では立教大学が早期に取り組んでおり、1997年度前期の総合A「大学論を読む」という科目で「立教大学とは何かを考える」というテーマで講義が行われている¹⁰⁾。国立では、九州大学が同じく1997年に、「全学教育」の「全学共通教育科目」内に「九州大学の歴史」を開講している¹¹⁾。

また、自校教育に関する2008年の調査では、136大学（大学総数の18%）が自校教育を実施しているとの結果が得られている¹²⁾。その形態は多様であり、授業計画のすべてを自学に関わる内容で構成していた科目は、全体の約3割であり、多くは自校教育に関する内容を「初年次教育科目」に一部織り込んで実施していることが報告されている¹²⁾。

大岡は、私立大学と国立大学との間での自校教育の位置付けの異なりについて言及し、私立大学における自校史教育の位置づけは主に愛校心の育成にあるが、国公立大学では大学で学ぶことの理念の周知にあり、自学の目的・理念・使命等を周知することで、自校史教育を通じて、学生自身のアイデンティティやキャリアの形成に寄与しようとしていることを報告している¹⁰⁾。

自校学習の効果の一つとして、野口は、「自分の大学を見つめなおす過程のなかで、自己への意識を深め、充実した学生生活を実現するとともに、今後のキャリアプランやライフプランなど個々人の生き方について考える機会を提供できる。大学で学ぶ意義を考え、学習への積極的姿勢を育むことが出来る」ことを挙げている¹⁰⁾。

このように、自校史教育は日本の大学において、約20年前より開始され、大学への愛校心の育成、ひいては自身のキャリアを検討する機会を提供することを目的に開

講されている現状がある。

Ⅲ. 本学における自校史教育

1. 2019年度「自校史と看護史」

「自校史と看護史」は、看護学部1年次2年次前期開講の選択科目であり、単位数は2単位（15コマ）である。

本科目は、学習目的を「本学の建学の精神や歴史、あるいはその時代に生きた人々を通して本学のミッションや本学の看護教育及び看護を確認し、自分が聖路加国際大学において学ぶ意味や行動指針を考えること」とし、あわせて、「わが国の看護および看護教育史を学ぶことにより、現在および未来の看護について問題意識をもつ機会とする」ことも目的としている。

講義、課外学習（エクスカッション）、課題の発表の3形態で教授し、内容を「自校史」パートと「看護史」パートにわけ科目を展開した（表1）。「看護史」パートでは各看護職の歴史についての授業を設定し、本学が看護において果たしてきた役割と本学の卒業生の実践活動についての内容を含めることで、看護史をとおして自校史が学べることを意図した。

2. 看護史パート

「看護史パート」は、看護師の歴史を佐居が担当し、大学史編纂資料室委員でもある在宅看護学・地域看護学の小野若菜子准教授が保健師の歴史を担当した。保健師の歴史では、本学の公衆衛生看護の歴史を含めて講義がさ

表1 2019年度 自校史と看護史 スケジュール

回	担当教員	授業計画
第1回	佐居由美	【科目ガイダンス】 【看護史：看護の歴史】
第2回	藪純夫	【自校史】聖路加国際病院の歴史と創設者トイスラー博士の偉業
第3回	佐居由美	【自校史】ミッションスクール・女子教育の発祥
第4回	大学史編纂・資料室	【自校史】聖路加エクスカッション
第5回	佐居由美	【自校史】戦前戦中戦後の聖路加の看護教育
第6回	片岡弥恵子	【看護史】助産師の歴史
第7回	小野若菜子	【看護史】保健師の歴史
第8回	岩辺京子	【看護史】養護教諭の歴史
第9回	牧野晃子	【看護史】看護の専門化の歴史
第10回	長松康子	【看護史】国際看護の歴史
第11回	斉藤洋子	【自校史】卒業生の国際活動の実例
第12回	佐居由美	【課題発表】課題①聖路加ものがたり
第13回	佐居由美	課題作成（個人ワーク）
第14回	佐居由美	【課題発表】課題②看護史について
第15回	佐居由美	課題提出物作成作業（個人ワーク）

れ、日本の公衆衛生において聖路加が果たしてきた役割について講義した。日本や本学における保健婦活動の始まりについて、実習や活動の様子、ユニフォームや訪問かばんなどの写真を交えながら解説した。

助産師については、助産学の片岡弥恵子教授が産婆の起源から現在に至る助産師の歴史を、戦前の助産婦さんの語りや、日本の新生児出生数、出産場所の推移などのデータ、自らの出産体験を交えて講義した。養護教諭の歴史は、2018年度まで養護教諭課程の担当者であった岩辺京子名誉教授が、学校看護婦から養護教諭への発展過程について教授された。

国際看護の歴史では、国際看護学の長松康子准教授が、看護における国際活動について、講義した。その内容は、国際看護協会（ICN）、国際助産師協会（ICM）の発足の経緯、そして、国際連合の看護活動に関するものであった。国際連合の看護活動については、ご自身の国連での研修体験を交えて説明された。また、国際協力機構（JICA）や日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）によって発展途上国に派遣され、国際看護を実践してきた本学の卒業生達が紹介された。

看護の専門化の歴史は、専門看護師（CNS: Certified Nurse Specialist）としての看護実践のある牧野晃子助教が担当し、看護が職業ではなかった時代から看護が専門化された現在に至る過程および、看護の高等教育化の歴史が説明され、学校法人聖路加国際大学の法人内における専門看護師、認定看護師について紹介がされた。

どの講義も、現在の状況に照らして、困難な時代を乗り越えた歴史を学ぶことの意義を伝えるものであり、実習前で看護の実例を知らない新入生の関心をひくよう工夫された豊かな内容であった。

3. 自校史パート

自校史パートは、大学史編纂資料室と協働して実施した。講義は、「自校史パート」を筆者と大学史編纂・資料室の藪純夫、特別講師として卒業生の斉藤洋子氏が担当した。

大学史編纂資料室の藪委員が「築地居留地跡に建つ聖路加国際病院の歴史と創設者トイスラー博士の偉業」をテーマに、大学史編纂資料室がもつ豊富な資料を用いて、本学の創設者であるトイスラー（Rudolf B. Teusler）博士について講義した。聖路加国際病院の旧館の定礎式におけるトイスラー博士の貴重な映像資料も紹介され、動くトイスラーの姿に履修生は見入っていた。本学の歴史については、渡部尚子教授がまとめられた講義資料を引き継いで、筆者が講義を担当した。課外学習は、「聖路加エクスカッション」と題し、大学史編纂資料室の室員が担当した。このエクスカッションでは、最初にトイスラーハウスにて、藪氏よりエクスカッションの概要およびト

イスラーハウスの説明がされた（写真1）。その後、トイスラーハウスを出て、聖路加国際病院旧館の南側入り口（写真2）から旧館にはいり、旧館廊下を経て（写真3）チャペル、チャペルの塔の下である旧館の6階に移動し、各場所で、藪委員が建物や室内家具、調度品にまつわる歴史を解説した。当初は、聖路加国際大学発祥の地である築地外国人居留地を散策することも計画していたが、時間の都合により、病院旧館のみでの学習となった。

また、自校史パートでは、卒業生による講義を取り入れた。卒業生（class of 1968）の斉藤洋子氏がお引き受けくださり、斉藤氏がクリスチャンとして神様に導かれ、発展途上国であるバングラデッシュで奉仕し、その後、保健師として活躍された看護職としての自分史について講義された。斉藤氏はバングラデッシュの民族衣装を着用して講義され、当時の多くの写真や現地の地図を資料に用いて解説された（写真4）。斉藤氏による講義は、特別講義として公開した。

4. 課題発表

本科目では課題を課し、その内容を発表するという時間を設けた。課題は、「課題① 聖路加ものがたり」「課題② まとめのレポート」の2つである。

「聖路加ものがたり」は、自校史での学びから、個人で聖路加の歴史に関連したテーマを決め、そのテーマについて、写真やイラスト、自分で調べた説明文をつけてポスター（A4サイズ1枚）を作成するという課題である。ポスターの発表は、ラーニングコモンズにて、2グループに分かれて実施した（写真5）。発表時には、歴史編集資料室の室員がアドバイザーとして参加し、発表内容について助言した。ポスターは発表時に得たコメントやアドバイスを踏まえて修正したうえで、提出とした。

提出されたポスターは、大学本館3階のラーニングコモンズの廊下にテーマ別に掲示し、本学の歴史の発表の場とした（写真6）。ポスターの作成および掲示は、学術



写真1：聖路加エクスカージョン（トイスラーハウス）



写真2：聖路加エクスカージョン（チャペル入り口）



写真3：聖路加エクスカージョン（チャペル廊下）



写真4：斉藤洋子氏（class of 1968）による自分史の講義



写真5：課題発表 課題①聖路加ものがたり



写真6：「聖路加ものがたり」ポスター掲示&書籍展示

情報センター学習コミュニティ支援室の支援にて実現し、テーマに関連した書籍を展示する協力も得た。

「課題②まとめのレポート」は、個人またはグループで看護の歴史に関連したテーマを決め、文献等を使って調べ、PowerPointを作成して発表するという課題であり、11グループ（1グループ1～6名）が発表した。

Ⅳ. 科目評価

本科目終了時に調査用紙（無記名）を配布し、留め置き法にて回収したところ、25名（回収率73.5%）から提出があった。

本科目の学習目的「本学の建学の精神や歴史、あるいはその時代に生きた人々を通して本学のミッションや本学の看護教育及び看護を確認し、自分が聖路加国際大学において学ぶ意味や行動指針を考えること」の達成に関して、各講義がどのくらい役に立ったかを問うたところ、平均値は10段階中9.16～9.72ポイントであり、「聖路加エクスカーション」が9.72ポイントであった。

また、科目についての自由な感想を求めたところ、10件の回答があった。内容を分類したところ（表2）、【様々な分野の貴重な話が聞けた】【自校史と看護史について深く学べた】に大別できた。【様々な分野の貴重な話が聞けた】では、「看護職の様々な分野で活躍されていらっしゃる方の声を聴くことが出来て、毎回新たな知識を得ることができた」「様々な方から様々な看護の捉え方を伺えて有意義だった」等のコメントがあった。【自校史と看護史について深く学べた】では、「自校史と看護史について深く学べてよかった。他の学部や学校では決して学べないであろう内容だったので、興味深かった」といった記述があった。

Ⅴ. 今後に向けて

2019年度の本科目を振り返ると、自校史とは、学校の歴史を学ぶだけではなく、大学の理念が人材育成にどのように生かされたかを学ぶ機会でもあったと思われた。

表2 2019年度「自校史と看護史」科目評価：自由記載

様々な分野の貴重な話を聞けた（6件）

- ・色々な方のお話がきけてとても楽しかったです。
- ・看護職の様々な分野で活躍されていらっしゃる方の声を聴くことが出来て、毎回新たな知識を得ることができて貴重な時間を持つことができて、ありがたく楽しく学べました。
- ・この授業では歴史だけでなく、助産や看護などのお話も伺うことができてよかった。
- ・様々な方から様々な看護の捉え方を伺えて有意義だった。広い教室の方が講義を受けやすかった。
- ・中々聞くことのできない専門家の方の話も聞くことができたのが良かったです。
- ・たくさんの方々に直接お話を伺うことができ、自校史では当時の様子を本などには載っていないウラ話を知ることができました。

自校史と看護師について深く学べた（6件）

- ・自校史と看護史は先輩におすすめていただき、履修しましたが、本当に良い学びができました。多くの貴重な経験もでき、また、聖路加や看護職の歴史もよく学べました。ありがとうございました。
- ・自分の大学や聖路加国際病院について改めて知ることができてためになりました。
- ・この授業をととして、自校史と看護史について深く学べてよかった。他の学部や学校では決して学べないであろう内容だったので、興味深かったし、この授業をとって良かったと思いました。
- ・私は聖路加の歴史を全くと言っていいほど知らなかったのですが、多くのことを知れてとても勉強になりました！！
- ・聖路加の色々なことを知ることができて、とてもためになりました。
- ・看護史では、さまざまな職種の歴史を知ることができ、良かったです。来年の後輩にこの講義を履修することをオススメしたいです。

卒業生は生きた教科書であり、本学の教育の成果物である。卒業生から学ぶためには、彼らの仕事や活動を直接本人から語ってもらうことに意義があると考えられる。今回の斉藤氏による自分史の講義では、時代は違っても、同じ大学で学んだという絆が、講師と学生の間にも感じられ、これは両者にとって有意義なことであった。このように、本学のミッションが看護の実践の場において達成されているかを学ぶことで、学校のアドミッションポリシーをより深く理解し、ひいては看護職としての自分の将来を検討する機会を本科目は提供しているといえよう。

また、本科目について学生の感想から、本科目の学習目的である「本学の建学の精神や歴史、あるいはその時代に生きた人々を通して本学のミッションや本学の看護教育及び看護を確認」すること、また、「わが国の看護および看護教育史を学ぶこと」が達成できたことが推察された。「自分が聖路加国際大学において学ぶ意味や行動指針を考えること」「現在および未来の看護について問題意識をもつ機会とする」という学習目的の達成に関連した直接的記述はなかったが、本学の歴史を興味深く学び、様々な看護職の歴史を知ること、今後の行動指針につ

いて考える機会となる可能性が推察され、本科目の学習目的が達成されたことが示唆された。

自校史の授業の基礎にとって、沿革史編纂事業や大学アーカイブスの整備と活用が不可欠であるという指摘¹⁰⁾にもあるように、今後も大学史編纂・資料室との協働のもと、集積された本学の歴史を科目内容に反映していきたい。そして、自校史や看護史を学び歴史への理解を深めることで、現在や未来に向けた看護や自らの立つ位置への示唆が得られる科目となるよう、よりいっそう洗練させたいと考えている。

謝 辞

本学名誉教授であります渡部尚子先生に深く感謝申し上げます。先生の情熱がなければ、本学の歴史が学際的に集積されることはなかったといっても過言ではありません。また、大学史編纂・資料室にも心から御礼申し上げます。膨大な資料を系統的にまとめるという作業がなければ、歴史は消えてしまいます。最後に、学習コミュニティ支援室の様々なご助言とご支援に感謝いたします。支援室のアドバイスにより、本科目の内容が発展しました。

なお、本科目の写真撮影およびに実践報告への掲載には、教学システムマナバにて告知し承諾を得ている。

引用文献

- 1) 松谷美和子, 小野若菜子, 佐居由美ほか. 聖路加国際大学看護学部2015年度刷新カリキュラム. 聖路加国際大学紀要. 2016; 2: 88-91.
- 2) 聖路加看護大学年報 2008年度(平成20年度)序文
- 3) 聖路加看護大学大学史編纂・資料室編. 聖路加看護大学のあゆみ. (St. Luke's College of Nursing booklet;

- 1). 東京: 聖路加看護大学; 2010.
- 4) 聖路加国際大学大学史編纂・資料室編. 高橋シュン: その人生と看護. (St. Luke's College of Nursing booklet; 2). 東京: 聖路加看護大学; 2014.
- 5) 聖路加国際大学学術情報センター大学史編纂・資料室編. 聖路加と公衆衛生看護. (St. Luke's College of Nursing booklet; 3). 東京: 聖路加国際大学; 2015.
- 6) 聖路加国際大学学術情報センター大学史編纂・資料室編. 学長経験者が語る聖路加と私. (St. Luke's booklet; 4). 東京: 聖路加国際大学; 2017.
- 7) 鶴若麻里, 渡部尚子, 新沼久美ほか. 戦前・戦中期にみる聖路加と日本赤十字社の公衆衛生看護とその教育の特徴. 聖路加国際大学紀要. 2016; 2: 1-9.
- 8) 佐居由美, 渡部尚子, 小野若菜子ほか. 太平洋戦争下の聖路加看護学生の看護実践. 看護歴史学会誌. 2016; 29: 104-13.
- 9) 麻原きよみ, 佐居由美, 長松康子ほか. 聖路加看護大学2011年度改訂カリキュラム. 聖路加看護大学紀要. 2012; 38: 52-7.
- 10) 湯川次義, 野口穂高, 大岡ヨトほか. 「自校史教育」に関する基盤的研究. 早稲田教育評論. 2010; 24(1): 169-241.
- 11) 小宮山道夫. 大学生の自校史教育受講に対する期待と需要に関する考察. 広島大学文書館紀要. 2011; 13: 104-24.
- 12) 大川一毅. 大学における自校教育の導入実施と大学評価への活用に関する研究. 平成23年 [Internet]. https://iwate-repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=8782&item_no=1&attribute_id=36&file_no=1&page_id=13&block_id=21 [参照 2019-10-20]